

【花壇づくりの取組みについて発表】

本郷町花壇 大羽 裕子 様

私は「本郷町花壇」代表の大羽と申します。先輩ボランティアから引き継ぎ、女性七名の仲間と花壇づくりに携わり七年になります。私は畑とポットを利用して、苗作りとデザインを担当しています。

最初に花壇の紹介をします。本郷町花壇の特徴としては、L字型の少し大きめの花壇です。この形を生かしたデザインにしようと、毎回頭を悩ませます。今回は、背の高いケイトウの花を正面後方に目立つよう配置しただけでなく、花壇後方から見ても主役級に見える楽しめる工夫をしました。

そして、これが本郷町花壇の特色では？と思われるのは、年四回の植え込みです。八月審査の夏花壇の植え込みを一回目とするならば、花の容姿が乱れる九月中旬以降にサルビアは切り戻し、他は新しい苗と入れ替えます。これが二回目です。

本郷町花壇は、立地が六ツ美支所及び六ツ美市民センターと岡崎市六ツ美体育館の駐車場の一角にあり、すぐ近くにはバス停もあります。よって町内のみならず学区内外の人の目に触れることも多いので、より長く花壇を楽しめるように、との先輩の意思を引き継ぎました。この二回目は一回目とおよそ同じ種を使用しますが、デザインを変えるので違った表情の花壇になります。同じ花でも夏とは違って、色鮮やかな秋花壇が霜が降りるまで楽しめます。

三回目は、十二月に葉ボタン・ストック・パンジー等で冬花壇を作ります。そして、暖かくなり始め葉ボタンのとうが立ってきたら、三月下旬頃に葉ボタンを除いた指定の種で春花壇を作ります。これが四回目です。よく育った株のパンジー・ビオラは、花殻摘みを続けることで五月まで楽しめます。

この年四回の植え込みをするには、種まき・苗作りが不可欠であり、それを担当する私に毎年違った困り事が起こります。今年の夏は猛暑でかつ雨が降らず、皆さんも苦労されたことと思います。

私にとって、今年の夏花壇で一番困った事はペチュニアです。初めての花で、種が非常に細かく、なんとか芽は出たもののいきなり日に当たるのが悪かったのか、一日でなくなってしまいました。種を注文して再度注意を払いやり直しましたが、まともな苗はポット苗十個しか作れませんでした。他の苗に後れを取り数も作れない上、ペチュニアは雨・風に弱いと知りました。そこで、定植後の花壇で他の苗と同じように上からたっぷりの水やりは向かない、と判断し、花壇の花から外しました。

また昨年の花で言うと、日々草にも悩まされました。若い苗を花壇に移した後、次々と病気になってしまい、苗を替えてもダメで、結果花壇での成育途中で、日々草を諦め他の花に変更することになりました。

このように、種から作る花には育てやすいものばかりでなく、コツのいる難

しいものもあります。しかし、苦い経験を経て花の特徴を知ると、「次はきれいに咲かせよう！」というヤル気も起きてきます。例年花壇に関わっているおかげでしょうか？また、花壇の手入れをしていると、知らない方から声をかけられることがよくあります。「きれいですね。いつも楽しませてもらっています。」といった声かけが、「また頑張ろう！」とヤル気を起こしてくれます。

自分の置かれた環境で、人を楽しませることができると実感すると、日頃の苗作りの苦勞も報われます。一年を通して土に触れ、日々成長する花と向き合いパワーをもらい、人と交流も生まれ、心も穏やかになる気がします。

最後になりましたが、この度は最優秀賞という名誉ある賞をいただき、大変嬉しく思っております。ありがとうございます。賞の名に恥じぬよう、地域作りの助けになるよう、本郷町花壇を仲間と共に育てていこうと思います。